

「火山の恵みと災害」

火山の恵みと災害

九州・山口県にある18の活火山

火山に設置してある主な観測装置の例

火山の恵みの中でくらしっていますが、時に噴火が発生することも

日本にはたくさん火山があり、わたしたちの生活と深いつながりを持っています。火山活動がくりだしたきれいな景色、火山のまわりに存在する温泉、豊かな農作物をつくる肥沃な土壌。わたしたちは、火山がもたらす恵みの中で生活しています。

しかし、時に火山は、噴火によって大きな災害をひきおこすこともあります。

気象台では、噴火による災害を少しでも減らすために、活動が活発な火山については常に監視しています。火山の様子がいともちがい、噴火がおきそうなときには、噴火警報を発表し、警戒を呼びかけます。

火山の噴火に伴って発生する特に危険な現象は・・・

主な火山災害

大きな噴石

噴石は、噴火に伴って、火口からふきとばされる岩石のことです。数km先まで飛ばされる岩石は、建物の屋根を打ち破るほどの破壊力をもっています。



火砕流

高温の噴出物が急速に山を流れくだる現象です。速度は時速100km以上、温度は数100℃にも達します。もし火砕流におそれたら脱出は不可能という、極めて恐ろしい現象です。



火山災害のイメージ

(政府広報オンラインから転載)

上の図は、火山災害のイメージです。

九州・山口県で、噴火があり、雪国では融雪型火山泥流もあります。

重要 火山活動に応じて、地元市町村は危険な場所への立ち入りを規制したり、避難を呼びかけたりします。

阿蘇山や桜島などの噴火警戒レベルが運用されている火山では、噴火した時の危険な範囲や必要な防災対応を5段階にわけて、「レベル3(入山規制)」や「レベル5(避難)」のようにキーワードをつけて警戒を呼びかけます。

降灰予報

降灰予報の発表例(桜島)

2009年4月9日 鹿児島市内の降灰

降灰予報

「降灰」とは、噴火のときに、ふきだした火山灰が風によって遠くまで運ばれ、広い地域にふりつもることです。火山灰は、目に入ったり、大量に吸いこむと健康被害につながります。また、農作物の被害、水質汚染、鉄道・道路の不通、飛行機のエンジントラブルなど、広く社会生活に影響します。

平成27年3月から、降灰や小さな噴石についてより詳細な情報を伝える新しい降灰予報を開始します。



2015年	3月5日	木曜日
平成27年		
福岡管区気象台	〒810-0052	
防災調査課	福岡市中央区大濠 1-2-36	
電話	092-725-3614 (記事) 092-725-3600 (天気相談所)	
メール	fk-kanku@met.kishou.go.jp	
(ご意見・ご要望はこちらまで)		

「お天気 Q&A」

Q: 火山のかみなりって何?

A: 普通の雷は、雲のなかで、あられなどの小さな氷の粒が、ぶつかりあって電気が発生します。一方、火山の場合は、噴火によりふきだした物質がぶつかりあうことで電気が発生します。

火山雷と呼ばれるこの現象は、下の写真で見ても、とても神秘的ですね。



気象情報へのアクセス

パソコン・スマホから

気象庁 検索

現在の噴火警戒レベル

噴火警戒レベル 検索